

中部

# いのちひとつながり

石川県

## 特定非営利活動法人 ワンネススクール

**支援対象:** 中学生、高校生、高校生年代、その他

**支援方法:** 学校以外での子どもの学習機会の提供、自然体験・集団遊びなど、子どもの多様な活動機会の提供、子どもやその家族への様々な相談助言、通所、居住による支援、電話・メール・来所相談

**スタッフ数:** 5名

**実施団体:** 特定非営利活動法人 ワンネススクール

**代表者:** 森 要作



住所: 〒920-2373 石川県白山市河合町二 46-1  
TEL: 076-259-5359 FAX: 076-259-5359  
e-mail: info@oneness-school.org  
URL: <http://www.oneness-school.org/>

### 成り立ちと活動の全体像

学校という一つの道に行けなくなったというだけで、社会からこぼれおちていく子が多い。また、人との交わりが少なく、生きることの意味を見いだせず、意欲を持ってない子も多い。人と交わり、学校以外でも子どもたちが生き、学んでいける場がこの時代に必要だという想いがあり、それが結果として、格差の無い、皆に機会均等な開かれたやさしい社会作りの一歩になるという願いで立ち上げた。

### 支援のスタイル・方法

まず、信頼感を持ってもらえるために、この場が安心できるものであるということを基準にしている。あるいは、はたらきかけはするが活動の強制はしないことを本人が自覚し、自発的に動けるよう見守ることを大事にしている。子ども支援には、親（保護者）支援が欠かせないものと考え、親子で集える機会をできるだけ多く作って、活動の理

解を深めてもらっている。また、親の会を定期的に行い親の心配や不安を受け止め、親が人生を肯定的に生きられるよう周りの環境整備に力を入れている。

競争による経済社会の中にポジションをみつけることだけを成功と考えず、人との関わり合い、つながり合いの中で道がひらけるという生き方を柱にしている。

### 目指していることは

「雑木林的環境で人は育つ」という考えのもと、異世代で共に活動することが多く、1人1人の実力の違いを認め合い共に成長していくことを喜び、助け合える学びの場でありたいと思っている。また、社会全体が学び場であるという考え方のもと、いろいろな活動をされている大人の方の職場を訪ねて、人生、仕事について学ばせてもらっている。はたらくこと＝“端を楽にできる”生き方を通し、自分を社会に貢献できるような生き方を大切にしている。

## 沿革

- 平成 11 年 4 月 自然学校として発足
- 平成 11 年 9 月 フリースクール活動開始
- 平成 15 年 8 月 特定非営利活動法人格取得
- 平成 18 年 4 月 若者就労支援事業開始
- 平成 21 年 4 月 高等学校中退者支援開始
- 平成 26 年 4 月 生活保護受給家庭における学習支援開始

## 主な活動

- ・ 不登校生のためのフリースクール活動
- ・ NEET、ひきこもり者の就労支援活動  
生きる力を付けるための活動。例えば清掃ボランティア、慰問ボランティア、楽器演奏、演劇、スポーツ、合宿、仕事をしている人のお話を聞くなど。
- ・ 新しい循環社会作りを目指す体験型“杜のがっこう”  
季節に応じた活動。農作業、木工製作、保存食作り、など。
- ・ 高等学校中退者のための学業、就労支援  
通信制高校等レポート作成、スクーリングなどを支援。学習支援。高卒認定資格試験取得のための学習支援。パソコンなど資格取得。職場実習。
- ・ 生活保護受給家庭の子どもへの学習支援  
平成 25 年 11 月から石川県白山市の委託による。
- ・ 保護者の相談支援  
毎月、小松市内、金沢市内においてそれぞれ一日ずつ親の会を開催。随時個別相談（要予約）
- ・ 講演会、研修会



# 「どのひとりも大切なひとり」「だれかのために 力を出してみよう」(子供親先生のための教育相談室)

石川県

## 教育相談室「あした塾」

**支援対象:** 小学生・中学生・高校生・保護者・教師

**支援方法:** 子育て、学習、問題行動、不登校等に関して  
の電話相談、面談

**スタッフ数:** 2名

**実施団体:** 教育相談「あした塾」

**代表者:** 滝井元之

住所: 〒927-0014 石川県鳳珠郡穴水町梶197

TEL: 0768-56-1151 FAX: 0768-56-1152

e-mail: mototom67@gmail.com

### 成り立ちと活動の全体像

平成18年当時、全国に子供たちの「いじめ」や「自殺」教師の自殺などの問題が多く発生(報道された)し、私の生活する県内においても話題になっていました。自分のできることは小さなことではないが、せめて私の住んでいる地域の子供や親教師のちからになれないだろうか・・・と考えて、この教育相談室「あした塾」を始めました。活動の中心は電話相談、依頼による出前相談ですが、学校訪問・啓発活動もしています。このボランティア活動の延長として、災害ボランティアの活動もしています。

### 不登校を克服するために

中学生の女の子を持つ母親からの電話から、この女の子の不安を解消し前向きに活動できるように働きかけをしていくことになる。(不登校気味になっていた)学習や部活動に対してとてもまじめに取り組むが、なかなか成果が上がらないことと家族の一部の過大な期待に応えられないことが大きな要因と思われたが、聞き取りをすると教師に対する不信感もあった。母親は子どもを理解しようと努力していたが、かなり疲れていた。電話やメールそして、家庭訪問などで本人には「勉強することの楽しさ」を知ってもらい講座を家で行ったり目標をクリアするための取り組み方などを話したりする一方、母親には一緒に頑張るといことで心の負担を軽くするような対応をしていった。学習の成果はなかなか上がらなかったが、不登校は解消されていった。

## 沿革

- 平成 18 年 11 月 教育相談室「あした塾」設立・活動開始(ボランティア)
- 平成 19 年 3 月 能登半島地震(石川県)以降災害ボランティア活動に取り組む
- 平成 19 年 7 月 新潟県中越沖地震支援(刈羽村)
- 平成 23 年 5 月 東日本大震災(宮城県・七ヶ浜町)支援

## 主な活動

1. 子供のかかわる諸問題・悩みなどの電話相談。出前相談。
2. 「いじめ防止」「命を大切にする」を啓発するポスターやカードを作成し石川県奥能登地域の小中高校等へ配布。学校との懇談。
3. 2.との関連で講演活動。
4. 災害ボランティア活動の取り組み。
5. 能登半島地震後の復興住宅被災者、在宅被災者への見守り活動。

---

---

### 復興住宅復の訪問活動

---

---

平成 19 年 3 月の能登半島地震で被災し、生活拠点をなくした人たちは、避難所生活、仮設住宅での生活(合わせて2年間以上)を強いられ、残念ながら再建はできなかった。やむなく町の復興住宅に移り、生活することになるが、それまで訪れたボランティアの人たちも来なくなり、住宅の一室にそれぞれが孤立感を感じながらの生活になる。その被災者を見守り、力になるという寄り添いの活動を思い立ち、月に1回ではあるが、手書き「たより」(あした塾)を作成し、配布しながら言葉を交わし交流を深めている。現在までほぼ6年70号以上の「たより」をわたしてきている。特に、一人暮らしの方たちからは喜ばれている。

私たちは私たちの子どもたちが、アットホーム(家庭的)な居場所で、ゆっくりと安心して成長していけるよう努めます  
私たちは私たちの子どもたちが、私たちとの人間関係の中で、愛されていることを実感し、人を愛することができるよう努めます  
私たちは私たちの子どもたちが、着実に自己肯定感を育み、将来、地域の中でしっかりと自立できるよう努めます

## 福井県

### 社会福祉法人 越前自立支援協会

**支援対象:** 生活保護世帯をはじめとする生活困窮家庭児童

**支援方法:** 地域NPO等と協働した子どもの貧困問題に関する市民啓発活動および基礎自治体や学校と連携したアウトリーチ型支援活動

**スタッフ数:** 32名

**実施団体:** 社会福祉法人 越前自立支援協会

**代表者:** 福塚昭雄



住所: 〒915-0853 福井県越前市行松町 26-2-2  
TEL: 0778-43-5514 FAX: 0778-22-7272  
e-mail: e-jikasen@yf.ttn.ne.jp  
URL: <http://www4.ttn.ne.jp/e-jiritu/index.html>

#### 成り立ちと活動の全体像

子どもの貧困問題は、虐待、不登校、自尊感情の低下など、いわば子どもたちの“育ちづらさ”や“生きづらさ”の温床になっていると言われている。また、6人に1人の子どもが貧困状態にある今日の状況は、コミュニティの紐帯を断絶し、地域社会全体を崩壊へと導くリスクを孕むに至っている。

そこで、貧困の渦中であって、地域社会で孤立し、将来への希望や生きる意欲を喪失している子どもたちの実態を広く地域住民に伝え、みんなとともに問題解決の糸口を見出していこうと市民啓発活動を企画した。

また、現在、児童養護施設で暮らしている子どもたちの大半は貧困家庭の出身である。さらに、施設入所児童の保護者自身もまた、児童養護施設の出身者であるというケースも少なくない。当法人は社会的養護事業を営む組織として、このような状況を深刻に受けとめ、地域の要支援・生活困窮児童に対するアウトリーチ型支援を行っている。

#### 当該事業の活動内容と効果について

平成26年度5月30日、NPO法人山科醍醐子どものひろばの村井琢哉理事長を発題者として迎え、「子どもの貧困を考える市民セミナー」を開催した。本集会は、今後の地域セーフティネットワーク作りを意識し、市内の福祉系NPOや福祉事業所、社会福祉士会や里親会などと協働して実施した。その結果、地域の福祉関係者や市民活動家、民生委員、行政職員など100名を超える参加者を得て、子どもの貧困問題の緩和や解消に向けて課題の整理と共有化を図ることができた。

また、平成23年度4月より、臨床心理士や社会福祉士等の専門資格を有する3名のケースワーカーが行っている学習支援を主としたアウトリーチ型支援活動は、児童福祉担当部署や生活保護担当部署、当該児童が通学する学校との連携をベースとして展開してきたが、年々その関係性を緊密化させている。その結果、就学の初期から関わっている児童については、学習の定着がみられた。また、支援者が保護者とは異なる大人としてのモデリン

## 沿革

- 平成 17 年 11 月 社会福祉法人認可・設立
- 平成 18 年 4 月 市より指定管理者の指定を受け、市立児童養護施設と児童家庭支援センターの運営を開始
- 平成 23 年 4 月 施設を新設し、事業を開始
- 平成 23 年 4 月 市の委託を受け、生活保護世帯の子どもの健全育成事業開始
- 平成 25 年 4 月 児童家庭支援センターを附置し、事業を開始

## 主な活動

- ・ 児童養護施設の運営  
平成 23 年度より新設した児童養護施設にて小舎型ユニットケアを開始、可能な限り 家庭に近い環境で、個別ケアを重視し、愛着関係を育む養育を実践している。
- ・ 児童家庭支援センターの運営  
平成 25 年度より児童養護施設に附置した児童家庭支援センターにおいて、地域相談事業、子育て支援短期利用（ショートステイ/トワイライト）事業、里親支援事業、地元小学校のスクールカウンセリング事業を展開している。また、市との協働による生活保護世帯の子どもの健全育成事業、乳幼児健診相談支援事業等を展開している。

グを提示することで、不登校を主訴とする児童の状態が少しずつ改善されている事例もみられた。

### 今後の展望として

子どもの貧困問題を地域社会で解決していくためには、コミュニティ全体を巻き込むソーシャルアクションが必要不可欠である。そこで、今後は、「貧困の連鎖を断ち切る」というミッションをより深化させ、貧困家庭全体が陥っている社会的孤立や排除、漂流などにスポットを当てた市民啓発セミナーを開催していきたい。

あわせて、本集会を企画するにあたっては、地域の他社会福祉法人や NPO、研究者等との協働開催を模索し、支援ネットワークのウイングを一層広げていきたい。

また、アウトリーチ型支援活動は、これまで主に学習や日常生活習慣の獲得を目的として展開してきたが、今後は欠食や孤食の問題など食育・健康対策、ソーシャルスキルの向上や孤独感の解消といった観点からも施設機能・人材を最大限に生かした支援を行っていきたい。

さらに、中長期的には生活困窮家庭にあって病気の親や弟妹の世話をしているヤングケアラーといわれる青年介護者等への支援活動も、施設退所児童へのアフターケアとリンケージさせながら展開していきたい。



# 人と人・人と自然がつながり 支え合う世界をつくる

岐阜県

## 特定非営利活動法人つむぎの森

**支援対象:** 不登校・ひきこもりの若者

**支援方法:** カウンセリング・訪問支援・適応指導  
就労訓練・体験就労

**スタッフ数:** 9 名

**実施団体:** 特定非営利活動法人つむぎの森

**代表者:** 豊永 利香



住所: 〒504-0000 岐阜県各務原市小佐野町 3 丁目 54 番地  
TEL: 090-1723-3002  
e-mail: tumuginomori2010@yahoo.co.jp

### つむぎの森のはじまりは

中学で教室に入ることができない子ども達が、卒業後社会的に支援を受ける制度がないという事がわかり、ひきこもらざるをえないという現実に関心のある方々から相談を受け、フリースクールを開設することになりました。

つむぎの森の活動は、これまでの学校の学びとは異なり、自分自身を振り返り、語り合うという人と人とのかけわり方が基本にあり、この話し合いが自ら主体的に活動を決めて行動する、というスタイルを生み、そうして決めた日常生活の様々な体験活動の中で、再び人や社会に対して自信を取り戻し、自ら働きたいという気持ちが生まれてきました。

やがて学歴ではなく、自分自身の力を認められひきこもり経験があっても一般社会で働くことが出来るようになり巣立って行きました。今では社会に出た子たちが時々訪れ、同じような体験をしている子ども達と活動し、ピアサポートの支え合いが生まれています。

### 夢の実現にむけて

つむぎの森では、「ひきこもる」という時間は、社会にはばたく前に自らの力を夢見、信じるために必要な時間、様々な体験活動を行っています。

- ・パン教室（サポーターと一緒にパン講師になるためのマンツーマンの講座）
- ・パソコン検定（日本情報処理検定会場のたった一人から検定試験がうけられる会場）
- ・イラストレーター（自分の作品の個展やグッズの製作販売）
- ・野菜の直売所（自分たちで作った野菜の販売）などひとりひとりの夢の実現をサポートしています。





## 沿革

- 平成 21 年 4 月 フリースクールどんぐり開設
- 平成 22 年 6 月 NPO 法人つむぎの森設立認証を受ける  
リサイクルゆいまーる開始  
手づくり工房まーゆ開設
- 平成 23 年 4 月 社会的居場所未知草開設
- 平成 24 年 4 月 就労準備支援農園つむぎ野開設
- 平成 25 年 4 月 ふれあい交流広場リサイクルストックヤード開設

## 主な活動

相談室くーむ・傾聴サークルあ・うんの会  
様々な問題に対して相談とカウンセリング、家族支援  
訪問支援そなたくらぶ  
マンツーマンのカウンセリングと同行活動支援・自宅訪問  
フリースクールどんぐり  
不登校・ひきこもりの若者の日常生活・社会適応訓練の場  
手づくり工房まーゆ  
手作業を中心とした就労準備支援  
社会的居場所未知草  
社会参加している若者対象の研修と語り場  
リサイクルゆいまーる  
リサイクルを通じた体験就労の場  
体験農園つむぎ野・ふれあい交流広場  
野菜の生産・販売の体験就労  
マーマハウス  
ひきこもり理解講座・ビジネスマナー講座・企業むけやる気講座  
各種講座企画

## だれもがみな主人公

中学で過敏があり、教室に入ることが困難だった Y さんは、卒業後つむぎの森のフリースクールで 3 年間を過ごしました。最初はひきこもっている自分を責め、人目をさけていましたが、自分自身のこれまで辛かった過去を何度も何度も語るうちに、本当は自分がどうしたかったのか、どんなことに傷ついてきたのかということに気が付きました。家族もその話を聞き、これまでいい子を期待してきたことが本人にとっては辛かったということや、一番身近にいたお母さんも、実はいい母、いい嫁を一生懸命することで生きづらさを抱えていたことに気がつき、親子でつむぎの森の活動に参加する様になりました。

人と食事をするのが苦手な部分があり、そのことが学校でみんなと同じということをするのが辛かったのですが、あるとき、畑で作った自分のいちごを食べて、その味がこれまで食べてきたものとは別物だという感動が、家族にも食べさせたい、もっとたくさんの人に食べてもらいたいという意欲につながり、野菜を調理して販売す

るというイベントに参加できるようになりました。人前で販売をしているとき、自分は接客をするより、裏方の準備をする方が向いているという事に気がつき、そのことがきっかけで、ある大手の飲食店のアルバイトに応募することになりました。中卒という学歴でひきこもり経験があると面接で話していても、その受け答えはこれまでの就労体験を積んできているので、自分なりの回答をすることができ、無事アルバイト就労することが出来ました。その後、本社からその働きぶりが認められ、全国で初めて未成年の店長代理となり、今は会社始まって以来の最年少店長となり、東京で開かれるオーナー会議にも出席しています。高校を卒業しなければ働けないという世間の言葉に傷つきひきこもっていた時期もありましたが、自分が何ができるのかを知ることで自分の道を見つけることができるということ、他の子どもたちに語り、希望を与えてくれています。

# 笑顔いっぱい てらこや「ようきたね」

岐阜県

## 岐阜キッズな(絆)支援室

**支援対象:** 東日本大震災の避難児・生活保護世帯児・生活困窮家庭児・ひとり親世帯児・外国籍保護者世帯児・発達障がい児など、家庭での学習に困難や課題がある児童・生徒

**支援方法:** 学習・食育・生活体験学習・社会体験学習

**スタッフ数:** 退職教員を中心としたボランティア 25 名

**実施団体:** 岐阜キッズな(絆)支援室



住所:〒500-6633 岐阜県岐阜市神田町6丁目24  
TEL:070-5330-1192 FAX:058-2274-8464  
e-mail: wakaoka-aki228@willcom.com

### 成り立ちと活動の全体像

2012年から、東日本大震災で岐阜に避難・移住してきた子どもたちを対象に、毎週土曜日に無料の学習塾を開いている。子どもたちは、大震災による混乱と突然の引越しや家族や友人との別れにより、慣れない環境に置かれて混乱し笑顔もなかった。また、岐阜に友達ができないと全員が訴えたことにより、岐阜市内の子どもたちも、一緒に学習することとした。岐阜市内の生活保護世帯やひとり親世帯の子どもたちは、家庭での学習環境が整わず、学校の学習についていけない子がたくさんいた。負の連鎖を解消すべく、全ての子どもの学習支援の場として広く地域に開放した。また、発達障がいがある子どもたちも、地域に行き場がなく孤立していたため、同様に学習するようになった。

また、学習のみならず、毎回自分たちで調理実習をして昼食を食べている。更に、月に1回は、社会体験学習として、科学館や歴史博物館やテーマパークに行って、生活経験の拡大も図っている。

### 活動の様子

毎週土曜日にマンツーマンで学習



中学生は、別室にて、受験勉強を頑張る



料理教室（生きる力をつける）



## 沿革

- 平成 23 年 3 月 東日本大震災発生
- 平成 23 年 4 月 支援活動開始
- 平成 24 年 6 月 県内避難者の生活支援及び交流会開催
- 平成 24 年 7 月 子どもの学習開始「てらこや無償塾」
- 平成 25 年 3 月 全国一斉ボランティアデー優秀賞授賞
- 平成 25 年 4 月 岐阜キッズな(絆)支援室として岐阜市にボランティア登録
- 平成 25 年 6 月 岐阜市民活動支援事業の補助開始
- 平成 26 年 4 月 羽田人権文化基金授賞
- 平成 26 年 10 月 名古屋大学教育学部 21 世紀人間発達学術研究基金授賞
- 平成 27 年 3 月 「ぎふ学習支援ネットワーク」設立

## 主な活動

### 学習支援

毎週土曜日に無料塾(てらこや「ようきたね」)を実施。夏休みなどの長期休業中は、平日にも一日中実施。また、生活保護世帯の中学生の高校進学に向けた学習も、マンツーマン指導を基本に重点を置く。

### 社会体験活動

月に1回は、科学館や歴史博物館などの公共施設の利用や、県外の施設へ公共交通機関を使って出かけたり、畜産センター等の広い公園で伸び伸び遊ぶなど、心身の解放と生活経験の拡大を図る。

### 生活経験学習

自然農法の野菜の栽培や収穫、自然農での田植えや稲刈りなどを通して、安心安全な食物を自分たちで育てる。

### 食育

毎回、自然農法産の安心安全な食材や調味料を使い、自分たちで調理実習を行い食事をする。健康な体作りと、正しい食生活への理解・関心を深め、生きる力を養う。

### 音楽教育

オカリナやウクレレの専門の指導者による音楽教室も行う。

### 保護者の支援

保護者の生活支援や、子育ての悩みなどにも、個別に面談サポート。

## 活動事例報告

### 畜産センター



動物さんがいっぱい~

### 田植え・稲刈り(自然農で全部がんばったよ)



ぬるぬる~

鎌の使い方はとくい



### 名古屋港水族館(電車に乗って行ったよ)



ふしぎな魚がたくさんいたよ。

### 円空仏彫り



「福島が早くふっこうしますように」

初めての体験。「にがい~」

### 茶道体験



人は変容することができるといわれる。我々には執着があり、それはなかなかむずかしいが、そのきっかけはどこかにある  
「迷悟我れに在れば、発心すれば即ち到る」

岐阜県

## 若者支援ネットワーク 発心塾

**支援対象:** 中学生 高校生年代 その他(引きこもりの若者)

**支援方法:** 学習機会の提供 自然体験など活動機会の提供 相談助言

**スタッフ数:** 正規職員 1名 非正規職員 2名 ボランティア 8名

**実施団体:** 若者支援ネットワーク 発心塾  
**代表者:** 三島 文吾



住所: 〒 501-6207 岐阜県羽島市足近町 3-323-5  
TEL: 090-3560-7051 FAX: 058-391-9341  
e-mail: bungomishima@ybb.ne.jp

### 成り立ちと活動の全体像

学習塾、予備校、高等学校の講師をしているとき、不登校の生徒に接することが多く、彼らは素晴らしい能力を持っているが、それがまだ表に表れていないと感じました。無限の可能性があるが、さまざまな原因によって、それが隠れてしまうことがある。しかし、ふとしたときに、それが生き生きと現れてくることもある。常に生き生きとした元気を保ち続けることは難しいが、「すべてのものが元気を取り戻す時間、空間をめざす」というキャッチフレーズで、平成 14 年、岐阜県羽島市で不登校の学習支援の「発心塾」を始めました。

利用者の中には、独学で勉強して理系の大学院に進学した方、まだかたちにはならないが興味のある芸術を追究している方などがおられます。

活動をすすめるうちに、対象とする方の年齢に幅ができ、学習支援の他に、経済的自立を目標とする就労支援、居場所としての日中活動支援、利用者とその親を対象にした心理支援が必要になってきました。

平成 23 年からは地域の人々の協力を得て、若者支援のネットワークとして活動ができるようになり、今に至っています。

### 就労・日中活動支援としての農作業

就労・日中活動支援として、農作業をしています。「農作業は諸々のことの基本である」という理念の下、地域の農家の協力を得て、活動を続けています。地域の活性化にも貢献できると思われれます。以下は、協力者である近隣農家の感想です。

「畑作は労働集約型の作業でとても一人ではできません。今の農作業が可能なのは次のことがあります。良き協働者が得られたこと、農作業に加わってくれるボランティアの参加を得たこと、作物を購入する人がいることです。種まきから販売までの一連の営みの中で得たことがたくさんあります。障がいのある人もない人も自分のペースで参加してくれます。種や苗、農業資材や情報を提供してくれる同業者や友人。そんな仲間たちと年に数回、カレーパーティやそばを食べる会を開きま

## 沿革

平成 14 年 4 月 「発心塾」を設立 不登校・引きこもりの学習支援を始める

平成 23 年 4 月 「不登校・引きこもり支援ネットワーク発心塾」として、学習支援とともに就労支援活動を始める

平成 25 年 4 月 学習支援、就労・日中活動支援、心理支援を活動の柱とし、名称を「若者支援ネットワーク 発心塾」に変更

## 主な活動

### 1. 学習支援

小学生・中学生から大学受験・資格試験受験まで対応

### 2. 就労・日中活動支援

～地域ネットワークの中での若者支援～

ネットワーク団体

近隣農家・・・農作物の栽培・販売

「羽島環境の会」・・・ダンボールコンポストの普及活動  
畑づくり

「羽島市能楽を楽しむ会」・・・芸術文化活動

「エンジョイライフ」・・・自己啓発活動

「アールヴェーダ スンダリ・ジャル」・・・国際交流  
ネパール

### 3. 心理支援

心理支援士とネットワーク

親のいきづまりなどを聴きいっしょに考えるカウンセリング的サポート

す。環境にやさしい農業を目指しています。ダンボールコンポストや木枠コンポストを利用して有機肥料をつくり、循環型の生活をめざしています。ふるさとの春夏秋冬に一喜一憂しながら、歩みは遅いが楽しみを見つけようとしています。

『小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。』（聖書）

## 国際交流 ヒマラヤ音巡礼

2014（平成 26 年）11 月、羽島市の極法寺で「伊藤公朗 シタール演奏会」を企画しました。インドの伝統的な楽器で、神々にささげる曲を奏でるシタール。ヒマラヤの音を体に浴びることで、慌ただしい日常から離れ、ゆったりとした時間をすごしてもらおうと主催しました。発心塾の若者が、会場準備や進行の手伝いを担当しました。70 人の来場者があり、目を閉じたり、体を揺らしたりしながら、ヒマラヤの響きに癒されました。ヒマラヤの音は、生き方に悩む若者に何かを与えてくれたかもしれません。



# 明日を楽しみに眠りにつける人を増やしたい

愛知県

## 一般社団法人 仕事にアル暮らし

**支援対象:** うつ病、引きこもり、精神障害の方  
うつ病、精神障害の方

**支援方法:** 就労移行支援事業、  
自立訓練(生活訓練)事業

**スタッフ数:** 6名

**実施団体:** 一般社団法人 仕事にアル暮らし

**代表者:** 加藤 悦子



住所: 〒489 - 0819 愛知県瀬戸市西本町 2 - 6  
TEL: 0561 - 76 - 7171 FAX: 0561 - 76 - 0071  
e-mail: info@worklivelove.net  
URL: <http://www.worklivelove.net>

### 成り立ちと活動の全体像

代表の加藤が青年海外協力隊としてアフリカに赴任した際、貧困のために簡単に命を落とす場面に出くわした。代表は赴任前に、企業内や病院などで精神疾患に罹患した方のケアをしていた。途上国の現実を見るにつけ、貧しい国に生まれても、精神的な疾患を持って、人生を楽しんでほしいと強く思った。また、お金がないが故に、明日食べるものがあるのか、不安なまま夜を迎える人たちと接したり、落ち込み目覚めなければよいと思いつつ眠りにつく人の話を聞くにつけ、明日を楽しみに眠りにつける人を増やしたいと思い、当団体を設立した。

活動は、月～金まで、就労訓練と、生活訓練を行いながら、その作業訓練として、ルワンダの製品を加工・販売している。

### ある日の活動風景

毎週火・木の午前中は、クロネコヤマトのメール便の配達の日。報告・連絡・相談を適した時期にふさわしい分量、行う練習と、段取りをとる力を養うのと、体力を養うために行っている。毎日、20冊～40冊くらいを配達するが、住所ごとに配達物を仕分けたり、地図上で配達先に○をつけたり、ルートを決めたり、準備をして、配達に出る。雨でも、雪でも、太陽が照りつける暑い日でも、配らねばならず、責任感も養われる。メンバーは協力するうちに、新しい仕事を覚え、周りとの協力し、遂行することを覚えていく。また、話をすることで、メンバー同士仲良くなれるのもメリットだ。

## 沿革

平成 23 年 8 月 団体設立

平成 24 年 4 月 就労移行支援事業開始

平成 25 年 11 月 自立訓練（生活訓練）事業開始

## 主な活動

### 精神障害者の障害福祉サービス事業

就労移行支援事業：うつ病、引きこもり、精神障害の方が就職できるように、最長2年間訓練を積み、就職を支援する。作業訓練、心理教育、就労支援、各種実習の4種類の訓練をしている。

自立訓練(生活訓練)事業：うつ病、精神障害の方が病気にもかかわらず自分らしい生活をしてゆけるように、家事スキル（炊事、洗濯、掃除、ゴミ出し、買い物など）、生活充実スキル（趣味の開発、外出練習など）、コミュニケーションスキル（断り方、初対面の話し方など）を最長2年間の訓練を提供している。

### 発展途上国の貧困緩和対策

発展途上国の貧困緩和のために、主にルワンダの元ストリートチルドレンや、貧しいお母さんたちが作った製品の輸入・販売をしている。

## 支援スタイル・方法

精神疾患の方の就労支援、生活訓練においては、メンバーの「自主性」を引き出すことに重点を置いている。また、仕事や生活のコントロール力を取り戻すことを通し、「自尊心の回復」と「自己効力感の向上」を目指している。



# 様々な理由で学校以外での学習機会を持ってない 子ども達への自主学習環境の提供をしています

岐阜県

## 学習支援室「こもれび」

**支援対象:** 小学生 / 中学生 / 一部高校生

**支援方法:** 学習見守りを基本とした支援

**スタッフ数:** 34 名

**実施団体:** 学習支援室「こもれび」

**代表者:** 松井 一樹

住所: 〒500-3113 岐阜市北山 1-13-11  
TEL: 058-244-5322 FAX: 058-244-5322  
e-mail: tomonokai@gifu-min.gr.jp

### 成り立ちと活動の全体像

医療機関の小児科医・精神科医が診療の現場から学習支援・居場所の必要性を感じ、その後コメディカル・地域の人たちと学習会を重ね 2014 年 7 月に 2 名の利用者から開始。

#### 学習支援が不登校克服に結びついた例

母子家庭。母親が精神科通院中。  
母親との関係が不安定で極度の対人不安あり。不登校で退学も検討されていた。こもれびで遅れていた勉強を中心に支援をつづけたところ試験にも役立ち、自信になった。スタッフとの良好な関係を築けたことも功を奏し対人不安が薄れ、不登校を克服。今では毎日学校に登校を続けている。

### 発達障害の子が継続してくることが できている事例

発達障害の診断を持ち、学校では友達もおらず母親はその克服に様々な手段を講じるも、同じところに二度も通う事はなかった。こもれびを紹介され来所されたところ、その後毎回続けて来ている。母親も学習意欲につながっていると評価。ある時、自分から話すことなどなかったこの子が隣の子の苦戦している勉強の問題を覗きこみ、自ら教えを買って出てスタッフ一同を驚かせた。

### 沿革

平成 26 年 7 月 ボランティア団体として学習支援室「こもれび」を開設

### 主な活動

開催日・時間 毎週木曜日 17:00~19:30  
利用費用 一切無料  
対象 小学生~中学生  
活動内容 「学習見守り」を中心とした学習支援  
ボランティア団体として運営しています



## ポトスの部屋

**支援対象:** 生保・1人親家庭の子ども

**支援方法:** 学習支援、居場所提供

**スタッフ数:** 18名

**実施団体:** ポトスの部屋

**代表者:** 山田ちづ子

住所: 〒456-0076 名古屋市熱田区切戸町3-105

TEL: 090-4544-1889 FAX: 052-681-9856

e-mail: potos@snow.ocn.ne.jp

### 成り立ちと活動の全体像

第一は、学び場の提供と保護者・学校・福祉事務所との連携の下で、子どもの進路を子どもの状況に即して的確に周知し、子どもの希望と能力に応じて進路を選定するように援助する。

第二は、地域の人々に学び場の活動を周知して、多くの支援を得て、地域から学びの機会を奪われている子どもらが、多く学び場に参加できるように広報を行うと共に、地域の人々のさまざまな教育への関心を上げられるように情報発信をする。

### 主な活動

- 1 生活保護家庭  
名古屋市南部の中学生年齢を主に対象とする。  
なお、小学生も適宜視野に入れる。  
高校進学への学力の確保  
及び学年相応の学力の確保
- 2 単親家庭  
同上  
同上
- 3 その他生活困難家庭  
同上  
1) 同上  
2) 生活困難な実態の解明と  
適切な社会的援助の発見

